

地小出版
方小版

情報誌

アクセス

| | |
|------|----------------------|
| 毎月1回 | 1日発行 |
| 購読料 | 定価 150円 (本体 143円) |
| | 年間 1,500円 (税込み) |
| 振替 | 00120-0-19017 |

発行所 (株)地方・小出版流通センター
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

ウインドチャイム ブックスと永井宏

「少年の頃のポカン感がいいといい
ながら、都合良く都会的なものを
最低限は欲しいと思ってしまう」

♪ # ♪

文・糟谷隆

ウインドチャイム ブックス代表・永井宏は、自らの肩書きを美術作家としていた。

詩を書き、絵を描き、平面・立体を問わず作品を作り、写真を撮って、文章をものしては年に一度、青山のギャラリーで個展を開く(10年続いた)。あるいは、ライブハウスやギャラリーで楽器を手に歌い、詩のリーディングをし、CDデビューも果たす。愉快を求めて、場と空間(ギャラリーだったり、カフェだったり、本屋だったり)を作り、主宰するワークショップやさまざまな場所で知り合った仲間たち(彼はこう呼ぶのが好きだった)と集まっては、ユニットやバンドの名前をつけて、わいわいとイベントを興す。休日には、ウインドサーフィンに凝った時期も長かった。

葉山の海を一望する小高い丘に部屋を持ち、ブルーグラスやサザンロックを聴きながら、電話とスカイプで、朝のひとときを作家として、編集者として打合せし、ラフデザインをDTPソフトで仕上げていた。

丘を下りた一色海岸の近くにはアトリエがあって、そこでは作品の制作が中心だったが、打合せをすることもあった。珈琲と煙草が大好きで、痛飲するほうではなかったが酒も飲んだ。

東京・世田谷生まれで、80年代のある時期(バブル期ともいわれる)を、ライフスタイルマガジンで名を馳せた大手雑誌社の外部エディターとして過ごしていた彼は、88年、東京での生活を停止して、逗子・葉山へと移住していた。そこで知り合った人たちとギャ



永井宏氏、享年59歳(撮影・大社優子)

ラリーを作り、当時流行りだしていた郊外での暮らしを啓蒙するムック『湘南 BEACH MAGAZINE』(‘94年マガジンハウス刊)を企画出版する。

編集後記で、彼は「ポカンの感じ」なる言葉を使って、その暮らしを説明した。「(前略)窓からいろいろな人を眺め、町で買物をし、散歩する。それを繰り返していると、子供の頃のポカンの記憶が交差してきて、しみじみ懐かしい匂いに浸りだしてしまうのだ。いったんその感じに浸りだしてしまうと、もう東京には行きたくなくなる。(中略)だが、長年、東京の生活に慣れた体は、刺激的な情報や文化に少しは飢える。少年の頃のポカン感がいいといいながら、都合良く都会的なものを最低限は欲しいと思ってしまう。(後略)。

そんな彼の中から、ウインドチャイム ブックスは、誕生していった。スタートは、2003年。奥さんとふたりでの出発だったと聞く。世にいう、リトルプレス。最初の一冊は、彼自身の詩・散文集「a hundred poems」で、部数1000部だったという。

ロゴの横に「日向で読む本 木陰で読む本 海辺で読む本 普段に読む本 季節の中で歌う本」という、コピーが添えられた。

写真家として、'70年代から作品制作は続けていたものの、湘南への移住が彼に与えた影響はおそらく決定的だったのだ。

眼差しは、日常へ。風であり、雲であり、流れ着く流木や草花のそよぐ音であり、猫や犬、近所のおばあちゃんとの会話であったり、雨の日のサンダルだったりもした。優しく愉快到ロマンティックに暮らす、なごやかでやすらかな日々を求めて。

そこから生まれるさまざまは、誰でもものは作ることができるし表現できる、という考え方(ネオ・フォークロア)として、ウインドチャイム ブックスの基本理念にもなった。

自ら編集した『ロマンティックに生きようと決めた理由』(‘05年)や『ボタンとリボン』(‘08年、‘10年)、自著『MARGUERITE MARGUERITE MARGUERITE』(‘05年)、『兎の復讐、そして77ラブソングス』(‘06年)、『FOLK SONGS』(‘07年)。ほかにも根本きこ『COYAの本』、村椿菜文『神様は7日目に休んだ』、丸岡永乃『子鹿の休息』(いずれも‘05年)など新しい書き手の本も生まれた。

関西でも同じような出会いがあり、大阪府枚方市星丘にある、星ヶ丘洋裁学園内「ソーイングギャラリー」やその裏庭のカフェ「ソーイングテーブル コーヒー」の設立に大きく関わり、カフェ店主・玉井恵美子の『夾竹桃の花

が揺れる頃に』(05年)を出版。

2010年6月、彼は東京時代の知人たちも含めた仲間を募って、神宮前にタンバリンギャラリーを開業する。そこは新しいスタッフも加わった、ウインドチャイムブックスの編集オフィスも兼ねていた。

湘南、関西とぐるりとまわって、もういちど東京へ。

それぞれのエリアの作家たちの展示と、詩と散文の本『ポタンとリボン』が、そこから発表される。7月、病が発覚。以前より少なくなったとはいえ、10年暮れまで彼はさまざまな企画に精力的に取り組んでいた。

自らの新刊『恋することについて答えをさそう』は、遺作になった。'92年フランスのヌーベルヴァーグの監督たちの足跡を旅した際の写真と自選した詩で構成された、2年ぶりの新刊・詩写真集だ。

2011年4月12日、永眠、享年59歳。最終色校正を見ることはかなわず、刷りは4月25日だった。

6月2日、鎌倉の「カフェ ヴィヴモンディモンシュ」で、刊行記念ポエトリー・リーディングの集いが開かれた。強い雨にも関わらず、80人を超える人が集い、彼の詩を読み、新刊を祝ってくれた。

アトリエは、ワークショップを中心とした仲間たちで、彼の蔵書を扱う期間限定古書店「一色海岸書店」として、7月末まで活動する。そして、ウインドチャイムブックスは、新しい体制で存続し、出版活動を続けることになっている。

●ウインドチャイムブックス

〒150-0001

東京都渋谷区神宮前2-3-24

タンバリンギャラリー内

tel 03-5770-2334

http://windchimebooks.com/

(かすやたかし／ウインドチャイムブックス)

新刊ダイジェスト

※価格は総額(税込)表示です。

『里海の自然と生活 一海・湖資源の過去・現在・未来』 ●印南敏秀編



以前、本誌で紹介した『里海の生活誌—文化資源としての藻と松』につづく里海シリーズの2冊目である。里海とは、人と海が出会い関わりあう干潟、磯、河口などの海辺のことで、里山と同様にとらえ方であろう。本書の前半では、荒廃・消滅の危機にある里海の問題を、自然、歴史、社会、文化などから総論的に述べる。

後半では、里海を形成する「海のゆりかご」と

いわれる藻場(もば)について、生物的・生態系的特性や肥料、環境保全といった色々な視点で言及する。各分野から10名の専門家が、瀬戸内、三浦半島、浜名湖、琵琶湖、宍道湖ほか各地の事例を紹介し解説する本格的な里海研究の貴重な成書である。

◆2940円・A5判・341頁・みずのわ出版・兵庫・2011/3刊・ISBN978-4-86426-007-7

『私たち図書館やっています! 一指定管理者制度の波を越えて』 ●本と人をつなぐ「そらまめの会」著

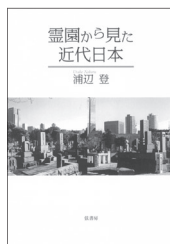


民間活力導入の名の下に急激に進行する公共施設への指定管理者制度。財政難に喘ぐ指宿市も平成18年、市立図書館への導入を決めた。だが、幸か不幸か同市ではその前年、図書館サービスの低調を見かねた市民により、図書館ボランティアNPO法人「本と人をつなぐ「そらまめの会」」が立ち上がり、改善の取り組みが始められていた。指定管理には反対だが、避けられないのなら自分

たちがと応募し、請負った。それからの感動の奮闘記。愛される楽しく居心地のいい場所にとの熱い思いが、イキイキワクワク、図書館を劇的に変えた。2期目の契約更改時、とてもあんな真似はできないと、競争相手は現れなかった。

◆1470円・A5判・154頁・南方新社・鹿児島・2011/5刊・ISBN978-4-86124-213-7

『霊園から見た近代日本』 ●浦辺登著



太宰府天満宮境内に残る定遠館は、日清戦争における清国北洋艦隊旗艦「定遠」の部材を用いたことに由来する。建てたのは同宮神宮で衆議院議員の小野隆助。この知られざる人物を追う著者は、小野が福岡に興った政治結社玄洋社社員であり、同社を支援した朝鮮開化党の金玉均の墓が東京青山霊園にあることを知る。さらに総師頭山満はじめ関係者の資料や墓碑が靖国神社、谷中霊園、築

地本願寺、泉岳寺などに点在することを突き止め、足繁く通う内にそれらの墓地に眠る様々な人物と日本が辿った近代化への道を再認識する。大杉栄と後藤新平の関係、宮沢賢治の宗教と科学など、思わぬ展開に興味は尽きない。

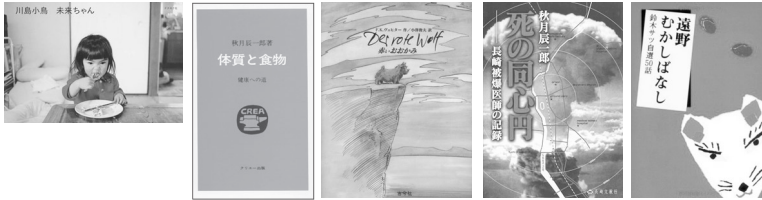
◆1995円・四六判・234頁・弦書房・福岡・2011/3刊・ISBN978-4-86329-056-3

売行良好書

期間：2011年5月16日～6月15日

[出荷センター扱い] ※税込み価格

- (1) 『未来ちゃん』 2100円・ナナク社 (2) 『体質と食物』 368円・クリエー出版部 (3) 『赤いおおかみ』 2415円・古今社 (4) 『死の同心円』 1680円・長崎文献社 (5) 『遠野むかしばなし』 1200円・熊谷印刷出版部 (6) 『日本はこうなったら核武装するしかない』 1785円・アートヴィレッジ (7) 『絵本講師の本棚から』 1470円・「絵本で子育て」センター (8) 『この世ランドの眺め』 1890円・弦書房 (9) 『新装版 不思議の国のアリス・オリジナル』 2100円・書籍情報社 (10) 『自閉症の子どもたちの生活を支える』 1575円・筒井書房 (11) 『いい会社をつくりましょう。』 1260円・文屋 (12) 『なせば成る!』 840円・山形大学出版会 (13) 『モンゴルの黒い髪』 1365円・石風社



[三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書] ※税込み価格

- (1) 『東京かわら版 6月号』 420円・東京かわら版 (2) 『未来ちゃん』 2100円・ナナク社 (3) 『山口晃：Singa-planet』 1050円・赤々舎 (4) 『房総沖巨大地震』 1050円・崙書房 (5) 『北海道いい旅研究室13 book1』 690円・海豹舎 (6) 『北海道いい旅研究室13 book2』 690円・海豹舎 (7) 『書中日記』 1680円・本の雑誌社 (8) 『決定版 ぼくら真田十勇士』 1890円・信濃毎日新聞社 (9) 『戦国武将の竹生島信仰』 1050円・サンライズ出版 (10) 『懐かしの吉祥寺 昭和29・40年』 1890円・ぶんしん

[ジュンク堂書店新宿店—センター扱い図書] ※センター出荷データより/税込み価格

- (1) 『東電・福島第1原発事故備忘録』 1575円・不知火書房 (2) 『山口晃：Singa-planet』 1050円・赤々舎 (3) 『高尾山・景信山・陣馬山登山詳細図』 735円・吉備人出版 (4) 『書中日記』 1680円・本の雑誌社 (5) 『ハンドブック 災害と心のケア』 735円・アスク・ヒューマン・ケア (6) 『未来ちゃん』 2100円・ナナク社 (7) 『四国の大名』 1575円・岩田書院 (8) 『チェルノブイリ原発事故 25年のメッセージ』 525円・原子力資料情報室 (9) 『神の詩 バガヴァッド・ギーター』 2100円・T A O L A B (10) 『風力発電の不都合な真実』 2100円・アットワークス

以下ホームページでも各種情報提供を行っております。ご利用ください。
本と出版流通のページ：<http://neil.chips.jp/>

トピックス — ★★★

▼ 松山のアテネ書店で小フェア

松山のアテネ書店松山空港店で6月から、東北の出版社特集として、東北各地の出版社の本が展示販売されています。「大変な災害に見舞われた現地の出版社の本を微力ではありますが応援の意味で、少しでも紹介できれば」とは店長さんのお言葉です。大規模なものではありませんが、少しでもこれらの本を手にとって東北に行く人たちが増えてくれたらと思ひ、散策ガイド、歴史紀行案内等実用書を中心とした品揃えになっています。

▼ 歌人・河野裕子さんの遺歌集が刊行

2010年8月に乳がんのため64歳で亡くなった歌人の河野裕子さんの遺歌集となる『蟬声』(ヨミはくせんせい)が6月中旬刊行となりました。新聞で取り上げられたこともあり、刊行前から反響が大きく、刊行後も引きもきらずに注文が入っています。河野裕子さんの息子さんで歌人の永田淳氏が主催する青磁社からの刊行で2800円。関連書籍として、本書にも載っている絶筆が掲載されたことで昨年か今年にかけて注文が殺到した『牧水賞の歌人たちVOL7 一河野裕子』(青磁社刊1890円)をあげることができるでしょう。同社からはほかに『母系』『歩く』(ともに3150円)といった河野さんの歌集も刊行されています。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。


◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3～4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。

◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。

★地方・小出版流通センター

FAX：03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



三省堂書店

BOOKS SANSEIDO

神保町本店 4階
地方出版・小出版物フロア

営業時間 10:00 AM～8:00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

営業の
ごあんない

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

